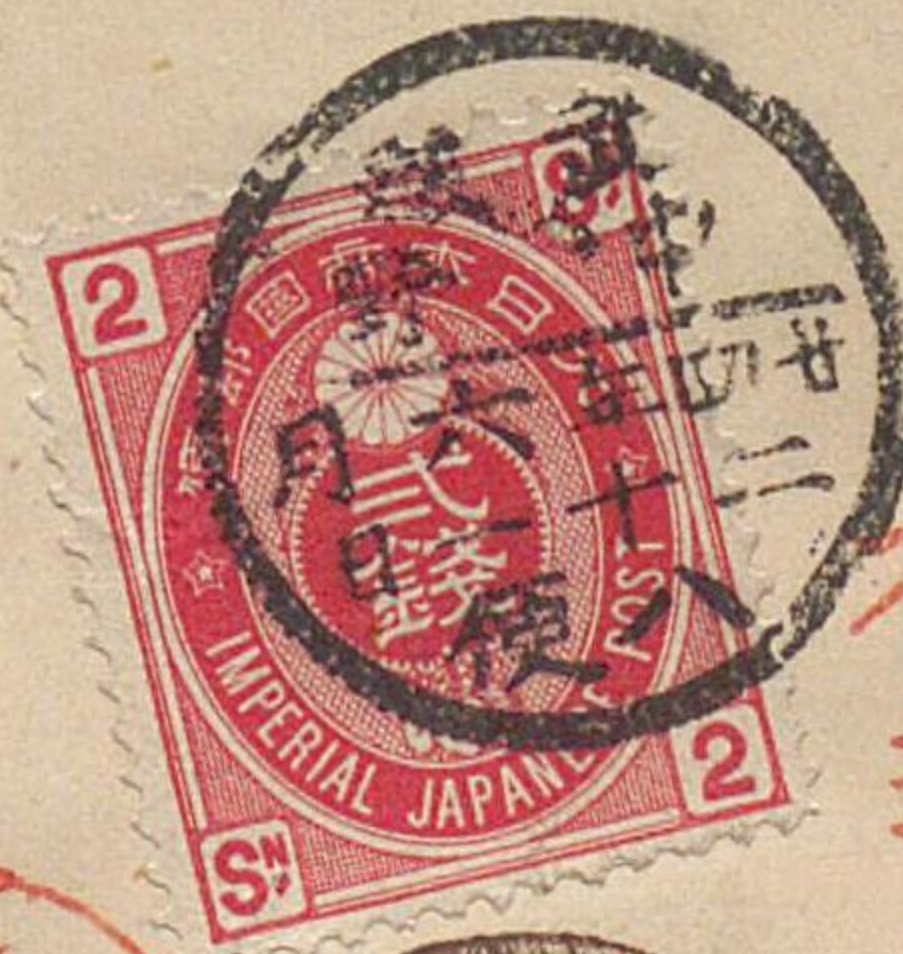


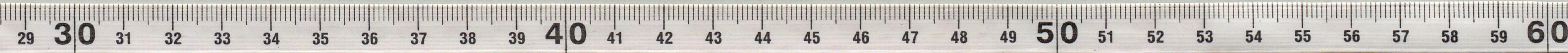
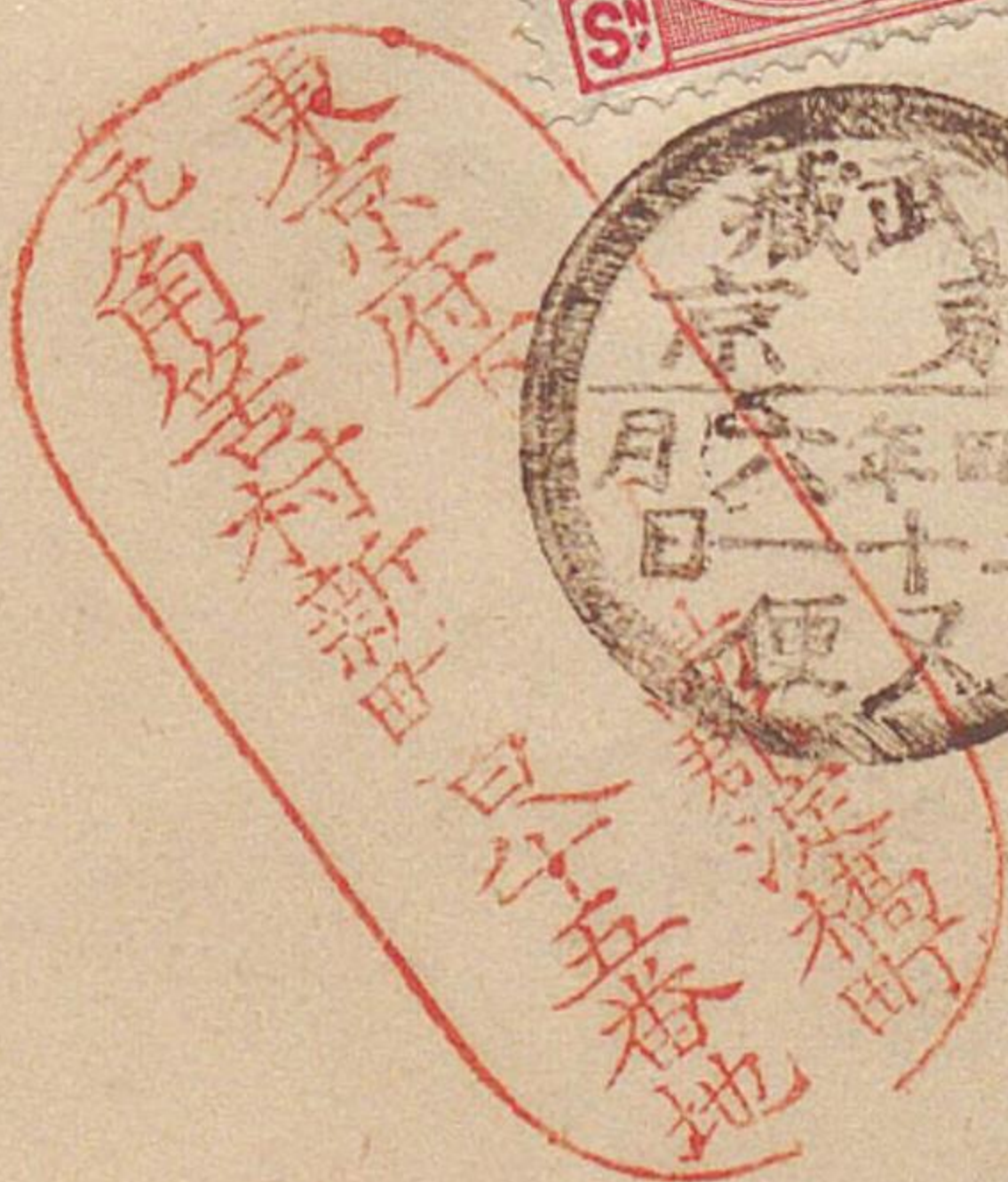
新島三良氏

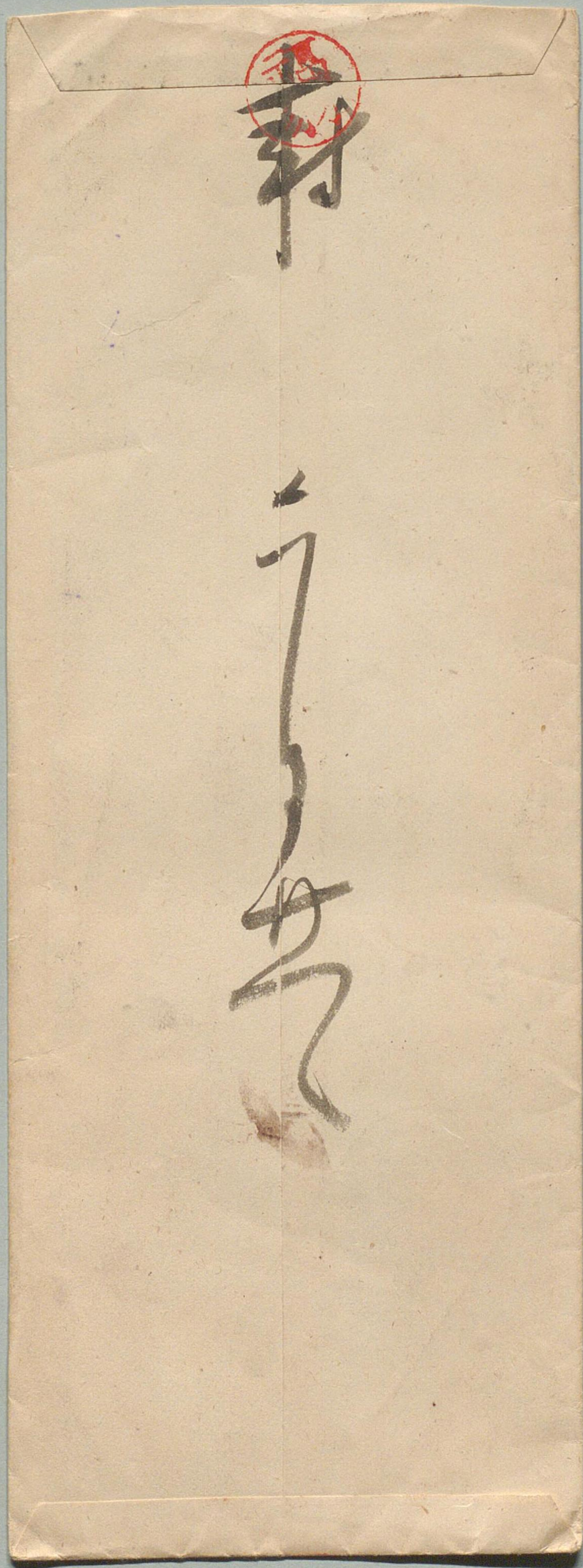
尾崎三良氏

新島



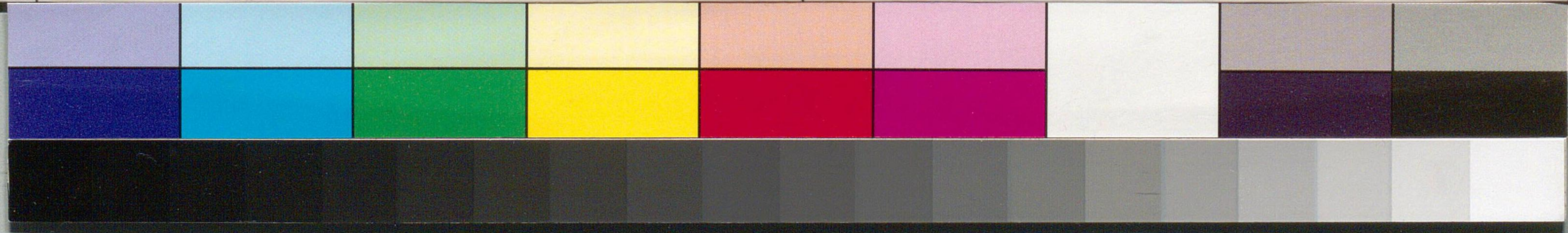
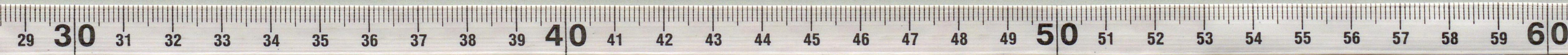
福羽美静



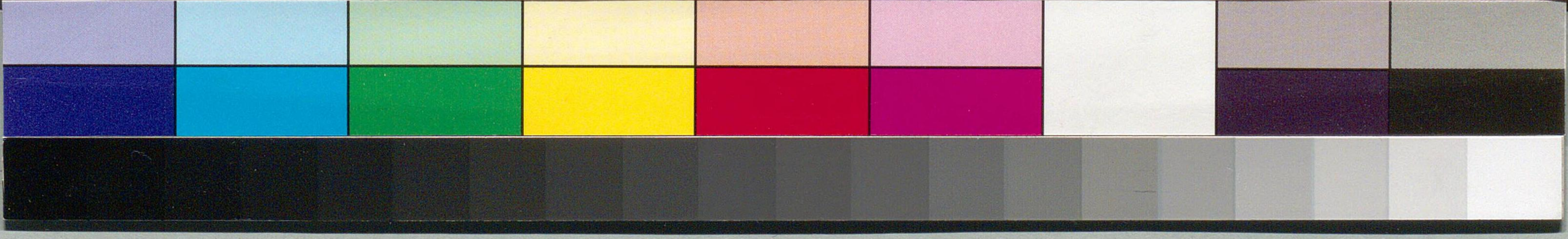


封

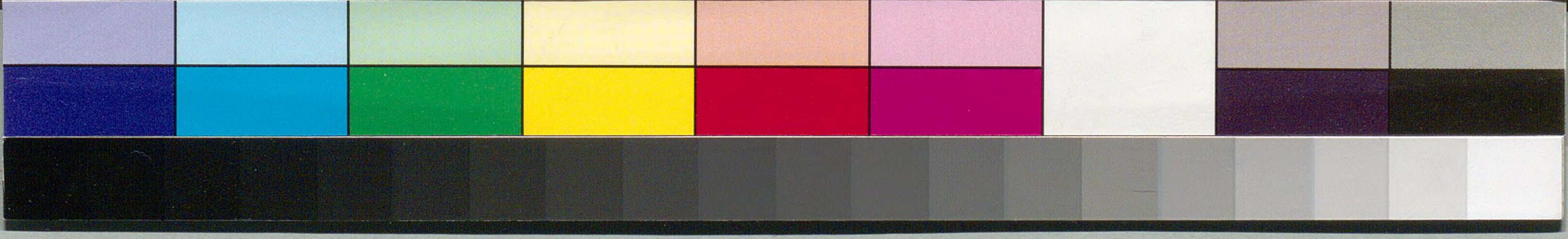
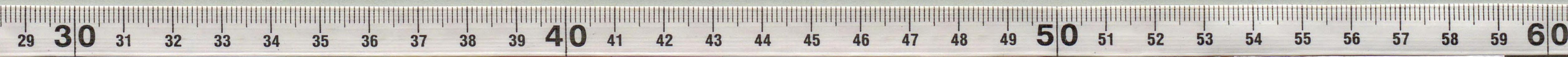
尾崎三良



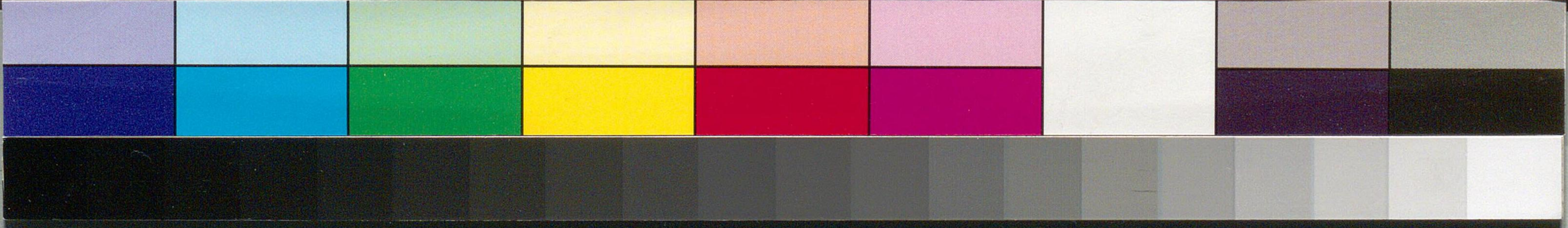
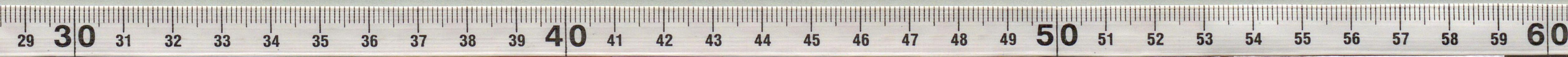
Handwritten text on a piece of aged paper, possibly a document or envelope. The text is written in a cursive script and is oriented vertically. The paper is folded, and the text is visible on both the front and back sides. The handwriting is somewhat faded and difficult to decipher, but appears to be a personal or official communication.



才桂おぼし比人つゆの
流
主上清字真景及榮
老話し如今多行
了りつて外
事罷
才桂
再
あり
あり
任由



ひするまゝの國の爲よへまのひまのひま
ひまのひま
御前廿三半正月廿八日書文會のひまのひま
第三雜賣美公館の圖書ヲ撰する出成美公館の圖書ヲ撰する出成美公館の圖書ヲ撰する



国立国会図書館 尾崎三良関係文書 7-7

付属資料

故三條實美公爵の國家に對する忠功及徳義は世人みな知れる所なりその
詠歌においても秀逸多し今一首を志るして同好に頒つ

明治廿三年五月廿八日舊友會のむしろよま
かりて

わするなよ國の爲よおのか身を
ありともしらてありしそのよを

實美

この舊友會といふは昔日國事の爲共に交はりし人々とし毎に會して昔日
をかたり舊好を修むるの一會ありことしは公去年の會に筆をとられしこ
の一幅を席頭にかゝけて公の追祭を催したることなりおのれその席にて
よめるうた

去年までは共にかたりし君を今ことしは神とまつるかあしさ

舊友會の一員

福羽美靜とるす

明治廿四年六月四日

人いさゝかやすき時は昔日を忘るゝものなり戒しむべしまた後進の輩お
のゝ國家につくさんとするの忠節も又みち業を大にして身をたつるの
孝道もそのもとゐたるの實情は此一吟の如くみな其本源をわすれずして
これをかへりみますゝその進路を怠らざるものとしるべし

美靜又識